令和8年度　第１回　学校関係者評価委員会における評価項目ごとの意見及び今後の対応

岐阜県立多治見看護専門学校

評価項目	評価委員からの意見	今後の対応
学校経営	・教育方針に基づいて組織目標を明確にし、その実現に向けた取り組みと継続的な改革が進められている。 ・自己点検自己評価委員会を中心として計画的に組織目標に対する評価を実施し、次年度の学校経営につなげることができている。 ・組織目標について、中間評価結果を中期目標の策定に活かし、公表につなげることができるとさらに良い。 ・教職員が共通の方向性をもって教育活動の実現に取り組む体制が整えられており、教育の質の確保・向上に向けた組織的な学校経営が推進されている。 ・職員間で情報共有し、連携して問題解決に取り組んでいる。	・引き続き自己点検評価委員会を中心として、学校全体で共通の目標をもって教育の質の向上に努めていきたい。 ・組織目標の中間評価を実施しているが、公表には至っていなかったためホームページ等での公表を検討していく。
学科運営	・授業・実習等について学生の状況や社会情勢を踏まえた適切な計画が立案され、それに基づく対応が進められていると評価する。 ・内性的・定量的な両面から評価が行われており、概ね成果や効果につながっていると判断する。 ・調査結果（資料２５）を踏まえた必要な改善を図るとともに、その内容を学生に適切にフィードバックするなど継続的な改善を期待する。 ・カリキュラム評価では８月より３月の結果が高く、教職員の指導の成果であると考える。病院からも講師を多く派遣しているが、学生のレベル等を教職員と共有して効果的な授業内容にしていきたい。 ・ディプロマポリシー到達に向けて、授業評価・実習での調整、インシデントの分析等、様々な内容に１つ１つしっかり取り組み成果が出ている。 ・科目が終了するたび、総括を行い、教育目標まで立ち返り、到達状況を学生にフィードバックできており教育の質向上につながっていると感じた。学生は年度毎で個性もあり、反応も異なるがカリキュラム評価を繰り返し、卒業時に身につけるべき能力が本当についたのか客観的に見ていくことがこの先の看護実践につながる。今後も看護基礎教育で何を到達させるのか精選し、質の高い看護師養成に期待する。	・学生生活実態調査の調査結果については、学生に対して丁寧に説明責任を果たしていくことが重要であると考える。実施後には担任や教務主任が結果についての説明を行い、改善の必要があるものについては検討し改善につなげていく。 ・多くの外部講師に講義を依頼しており、学生にとっては大変効果的な学びが得られていると考えている。引き続き、講師の先生方と学生のレディネス、国家試験の出題傾向など共有しながら進めていきたい。 ・ディプロマポリシーを常に意識して学生の教育にあたっている。タイムリーに授業評価、インシデントの分析を行い、教職員としてどの様に指導していくか、教務会で共有して一貫した指導が行えるようにしていく。 ・カリキュラム評価を継続し、学生の能力について客観的に評価するとともに、授業・演習を工夫し、目標の到達度を確認していく。
入学・卒業対策	・入学者確保は、少子化や進学動向の変化により入学定員を充足できていない状況がみられる。社会情勢や受験生のニーズを踏まえた対策を期待する。 ・退学・休学者への対応も適切に行われていると評価する。 ・国家試験合格100%を維持していることは高く評価できる。 ・令和7年度県内就職率が高いことは、地域に貢献する人材養成の成果として評価できる。 ・学生確保が困難になっていることは重要な課題である。今後も連携を図っていきたい。 ・多治見看護の強みをアピールしていく方法を考える必要がある。 ・入学生の確保にはつながらなかったが、出前授業やガイダンスでのアピールなど努力できた。 ・地域で活躍する卒業生も多い為、学校の魅力度アップのため卒業生の力を積極的に借りるのも学生確保に効果があるのではないか。 ・来年度より新卒の学生の入社を受け入れる準備を行っている。就職支援において訪問看護も選択肢の一つとして紹介するなど、このような動きを広めていけると良い。	・当校の強みとして、国家試験合格率が100%であること、公立であり学費が安価であること、主たる実習病院から多くの医療従事者が講義に来てくださること、少人数で丁寧な指導を行っていることを、ガイダンスやオープンキャンパス・高校訪問でアピールする。家族参観を通して、当校の教育の理解を深めていただくこともアピールにつながると考えるため継続する。 ・ホームページの作成については、ICT委員が中心となって進めている。学生の声を掲載するなどの工夫をするとともに、制約がある中でも、若者の目を引くようなホームページとなるように検討する。 ・少しでも当校をアピールし、看護職を知ってもらう機会として、中学生を対象とした出前授業やガイダンスの紹介を行い、要請があれば積極的に参加する。 ・オープンキャンパス等において、卒業生にも何らかの協力が得られないか検討する。 ・就職支援については、学生の希望が叶うように、就業先の動向を踏まえながら引き続き細やかな支援を行っていく。

評価項目	評価委員からの意見	今後の対応
学生生活への支援	・近年の学生を取り巻く環境や心理面の変化を踏まえ、メンタルヘルスや心理的安全性の確保に向けた取り組みが進められ、学生生活が概ね適切に行われていると評価する。 ・入学後の早期から学生に寄り添い、進学・就職など進路に関して学生の相談にのっている。多様な学生も増え、看護学の学習以外の支援を求められることもあり、精神的支援を丁寧に行っていることが伝わる。経済的な問題や家庭の機能の未熟さに関する問題など社会的な苦痛を抱える者もあるため、引き続き学生に寄り添った指導をお願いしたい。 ・多様化・複雑化する学生のニーズに応じた、継続的な支援体制の充実を期待する。 ・障害学生支援規程を運用し、障害のある学生に対しても選択肢が広がり、教員も統一した支援が行える体制作りに努力している。	・学生の相談には丁寧かつ迅速に対応しているため、引き続き継続していくとともに、配慮事項がある学生に対しては「障害学生支援規程」に則り、学生と頻回に話し合いながら対応について考えていく。 ・学生の意見をよく聞き、時代の流れと照らし合わせながら、場合によっては学校のルールを改定するなど柔軟な対応をしていく。 ・担任が中心となり、常に学生の様子を見て、気になる学生には声掛けを行い、支援していく。また、必要時にはカウンセリングにもつなげていく。
教職員の育成	・時代の変化を踏まえた研修の受講と、キャリアラダーを活用した実践・評価が行われ、計画的な人財育成に取り組まれている点は評価できる。 ・資料から教員の育成到達度、育成上の課題が十分に把握できない為、キャリアラダーの達成状況や研修成果、今後の課題等を可視化することで取り組みの成果をより適切に評価できると考える。 ・学会参加や看護実践報告会での発表など積極的に取り組まれている。 ・実習時は指導困難な学生の対応について意見交換を行っており、新人教員が孤立することなく、また複数の教員で指導にあたることにより新人教員も成長できると感じる。教員が辞めない環境。教員の確保、育成が今後も重要である。 ・授業研究の取り組みの一環でプロジェクトとして看護実践報告会で発表されたことは、教員のモチベーションアップにつながった。授業参観も一人一回行うことができ、教員間で教授方法を高め合うことができた。 ・授業参観のリフレクションや授業方法に関するディスカッションこそがより良い教育方法を見出すことにつながっていくと考える。	・研修受講後の伝達講習、授業研究、授業参観を継続し、よりよい教育の実施について努力したい。 ・看護協会の看護実践報告会での発表を通して学校の教育の現状について理解していただけるような活動も検討していく。 ・キャリアラダーの評価については、各教員が経験年数によってそれぞれの目標の到達度について、2回／年、9月・3月に評価を行い教務主任・校長が結果をもとに面談を行っている。それぞれの到達度について、紙面で評価して返してフィードバックしているため、前年と比較できるようにしていく。 ・実習時は、指導困難な学生の対応について毎週ミーティングを行い、対応を検討するとともに、全体の進捗状況も共通認識しながら進めている。また、年2回、好事例・困難事例の検討会を行い、指導力向上につなげているため、継続していく。 ・教員のモチベーションを上げることも教員の離職防止につながると考えるため、教育についてお互いの考えを自由に語り合える関係性が維持できるように心がける。
管理運営・財政	・個人情報保護や防災・犯罪対策など、管理運営体制は概ね適切に整備・運用されていると評価する。 ・学生からの要望については、可能な対応を引き続き検討されることを期待する。 ・財政面については、提示された資料のみでは詳細の判断が困難であるが、学生数の減少を踏まえ、中長期的な財政基盤の維持・強化に引き続き取り組まれることを期待する。 ・災害備品を学生、教職員が各自配備され、意識の高さを感じる。 ・県の予算の中で良く頑張っていると感じる。 ・ICTを積極的に活用し、業務の効率化・教員の業務量軽減につながっている。 ・適正な予算執行・進行管理に努めることができている。災害もいつ何時発災するかわからないため日頃の備えが重要である。 ・災害対策だけにとどまらず、防犯についての研修会も実施しSNSの適切な利用や、個人情報保護なども含めた危機管理を常に意識し、安全安心な学校運営につながっている。	・学生からの要望は、運営会議等で十分検討し、可能な範囲で対応を行っていく。対応できないことについては理由を十分に説明し、学生の不満とならないよう努力する。 ・サイバーセキュリティ研修として適切なSNSの取り扱いについて研修を受けている。また、学生は、毎実習毎にDVD視聴および個人情報自己チェック表を用いて情報の取り扱いに対する意識向上を図っている。情報管理の点で、効果があると考えているため引き続き実施していく。 ・県立三校をつないでの、ゲートキーパー研修、職員はモラル研修を実施しており、意識を高めることができている。 ・厳しい財政状況ではあるが、少しでも学生の教育活動に不利益が生じないような予算確保を目指す。 ・校務支援システムはICT委員を中心に、県立三校で調整しながら進めている。少しでも業務量の軽減につながるような運営を検討するとともに、マニュアルの整備も行っていく。 ・災害対策として、実習オリエンテーション時に災害時の行動確認を学生に行うとともに、教職員に対しての災害研修を継続していく。

評価項目	評価委員からの意見	今後の対応
施設設備	・ハード面の制約がある中で、トイレの改修に着手されたことは評価できる。アンケートの意見に対する検討や改善内容、対応が難しい事項についての説明が十分把握できない。対応状況や優先順位を学生に分かりやすく示すことで、取り組みをより適切に評価できると考える。ハード面やコスト上の課題を踏まえつつ、引き続きICT環境を含む学習環境の改善に取り組まれることを期待する。 ・視聴覚室で自己学習ができる環境があることは良いと思う。 ・学生生活実態調査の中でもトイレの改修を希望する意見があり、改修が進むと良い。 ・建物の老朽化は否めないものの、計画的な修繕、改修に取り組むことができている。限られた予算、建物の構造的な制約はあるものの、その中で学生にとっての教育環境を工夫しながら良い環境になるよう整えられている。	・トイレの改修については今年度、本館・睦館とも改修工事が行われている。施設設備については、床の汚れ、面談室の防音工事、水回りの改修などなかなか予算確保には至らないが、引き続き要望していく。 ・限られた予算ではあるが、その中でも優先順位をつけ、必要な物品については購入できるよう努力する。 ・アンケートの意見については、その返答を学生に行っているが、設備の改修など対応できないところは、理由を十分に悦明するとともに、段階をふみながら改善を進めていくことを説明する。 ・ICTについては、引き続きタブレットやパソコンを用いた講義・演習を計画するとともに、校務支援システムの利用を進める。また、学生のパソコン持ち込みに向けてルールの確認を行っていく。
社会貢献 地域活動	・中学生を対象とした講話、授業参観、ボランティア活動等地域に根ざした活動が行われていることは評価できる。教育理念の「社会のニーズにこたえ得る能力の育成」に向け多様な地域活動の意義を学生に伝え、主体的な参加を促す取り組みを期待する。 ・広報について必要な情報は確認できる一方、写真や活動内容の紹介など、学校の特色や魅力が伝わる掲載内容や見せ方を工夫し、広報の充実を期待する。 ・ホームページは検索しやすく工夫されている。更に学生が目を引く内容になると学生確保につながると感じる。 ・実習以外では学校からの案内や地域交流に関する発信は届いていない為、今後相互に交流のできる機会があるとありがたい。 ・科目を通して地域ボランティア活動を行い、継続して地域に関わる学生もみられたということでとても良い取り組みであると感じる。 ・広報活動のデジタル媒体の活用や、ホームページの工夫は毎年検討事項として挙がるため、工夫できるとさらに良い。 ・生涯学習入門をきっかけに地域でのボランティア活動が継続できているのは素晴らしい。科目の入り口から主体的な地域貢献につながる学生が更に増えることを期待する。 ・地域に密着した学校として、多治見看護が認知されれば、地域からの期待も大きくなる。そういった事の積み重ねが入学生確保につながると考える。	・看護職を希望する人材が少しでも増えるよう、看護の仕事を知ってもらう取り組みとして、地域の中学校への出前授業をアピールする。 ・制約の中ではあるが、ICT係が中心となり、ホームページの更新を行い、閲覧者が少しでも興味を持ってもらえるように視覚的に訴える工夫をしていく。 ・実習施設に学校での行事や授業を公開するには至っていない。実習施設の看護師に学内の演習に入ってもらい、コメントをいただくなど、現場の看護師の視点が学べる機会を設けて今年度実施している。 ・ボランティア活動については、地域貢献・当校のアピールにもつながるため地域や実習施設とも連携し、継続できるよう支援する。